

# 未来の家計を予測してみよう

## 将来の家計に問題がないかチェックしよう

### 将来の家計が見えるキャッシュフロー表

人生の夢をかなえながら、将来にわたって赤字に陥らない健全な家計を実現するためには、10年単位の長期的な視野に立って家計の収支を予測しておく必要があります。そのために役立つのが、家族のライフイベントや先々までの収入、支出、貯蓄残高などを一覧にした「キャッシュフロー表」です。

この「キャッシュフロー表」を作成することのメリットは、将来どのタイミングで大きな出費があるのか、また収入、支出、貯蓄額がどのように推移するのかを、把握できることです。



## キャッシュフロー表はそのつど見直しをしよう

### ライフプランの変更に合わせて柔軟に見直そう

「キャッシュフロー表」は、将来のライフイベントとキャッシュフローを併せて見渡し、先々赤字になることはないか、貯蓄は順調に増えていくかなど、家計の健全度をチェックすることができる便利なツールです。人生の夢を着実にかなえ、充実した人生をおくるためにもとても有効ですので、ぜひ上手に活用してください。

ただし、今つくる「キャッシュフロー表」は、あくまでも現在の状況をもとにして、将来の家計を予測したものです。先々には転職をして収入が変わったり、子どもの進学プランが変わったり、住宅購入予定が先延ばしになったりなど、予想したライフプランと実際とが違ってくこともあります。このような変化があったときには、そのつどキャッシュフロー表も柔軟に見直し、必要に応じて資金繰りなどを考え直すことが大切です。

将来の収入や支出、ライフイベントには不確定な要素も多いですが、そんな中でできる限りの見通しを立てて必要なお金に備えることが、夢をより身近なものにするカギといえるのです。

#### POINT

- 夢をかなえるためにも長期的な視野で家計を見ることが大切。
- 人生の計画が変わったら、キャッシュフロー表も一緒に見直しをしよう。

ここまでで家計の現状がわかったら、今度はその情報をもとに、将来どのように家計が推移するのかを確認してみましょう。

## キャッシュフロー表の書き方

### 収入・支出、ライフイベントを書き出してみよう

それでは、さっそくキャッシュフロー表を作成してみましょう。まず家族の年齢と、将来予定しているライフイベントを書き込んでください。これに伴い一時的な費用がかかるときは、その大まかな金額を予想して「一時的な支出」欄に記入します。

次に、P8で紹介した各年の手取り収入（可処分所得）を収入欄に書き込みます。贈与など不定期な収入があれば「一時的な収入」の欄に記入します。これらを合計した額が年間の「収入合計」**A**となります。

次はP9で書き出した年間の「支出合計」を記入します。「収入合計」**A**から「支出合計」**B**を差し

引いた金額が、それぞれの「年間収支」です。マイナスになってしまっている年があれば、支出を見直すなど改善策を考えましょう。

最後に前年の「貯蓄残高」+「年間収支」で、貯蓄残高を算出します。ここが順調に増えていけば、年間収支が一時的にマイナスになる年があっても、ひとまず家計は健全といえます。なお、本来キャッシュフロー表をつくる際には物価上昇や運用利回りを考慮した金額を記入するのが基本ですが、下の見本は変動率をゼロとしています。これを参考に、巻末の書き込みシートに書き込んでみましょう。

#### キャッシュフロー表の書き方（見本）

ここに現在の年齢を記入

(単位:万円)

年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年
経過年数	現在	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後	10年後
夫の年齢	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48
妻の年齢	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45
子どもの年齢	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
子どもの年齢	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
子どもの年齢											
ライフイベント	家族のイベントを記入 ●長男小学校入学 ●次男小学校入学 ●車の買い替え、妻パート減らす ●夫昇進 ●長男中学校入学 ●次男中学校入学、家族旅行										
夫の収入	550	550	550	550	550	550	550	610	610	610	610
妻の収入	110	110	110	110	110	90	90	90	90	90	90
一時的な収入											
収入合計 <b>A</b>	660	660	660	660	660	640	640	700	700	700	700
基本生活費	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200	200
住居関連費	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175	175
車両費	34	34	34	34	34	34	34				
教育費	54	54	54	54	54	54	54				
保険料	40	40	40	40	40	40	40				
その他の支出	35	35	35	35	35	35	35				
一時的な支出						150					
支出合計 <b>B</b>	538	538	538	538	538	688	538				
年間収支 <b>A - B</b>	122	122	122	122	122	-48	102				
貯蓄残高	122	244	366	488	610	562	664				

◎キャッシュフロー表を自分で作成するのが難しい、作成した表について誰かにチェックしてほしいといった場合、ファイナンシャル・プランナー（FP）に相談してみましょう。FPはキャッシュフロー表の作成や、作成のサポートも行います。FPに関する詳細はP68をご覧ください。

各年の貯蓄残高＝  
前年の貯蓄残高＋当年の年間収支で計算

イベントにかかる費用はここに記入